

## シンガポールと兵庫県の意外な共通点

シンガポールデスク 関 泰二

### 1 シンガポールと兵庫県の意外な共通点

シンガポール共和国は、東南アジアに位置する稀有な都市国家です。1つの都市自体が政治的に独立した国家として機能するこの形式は、世界的にも珍しいものです。シンガポールが都市国家というシステムを採用している背景には、その国土面積の小ささが大きく関係しています。訪れたことがない方にとって、シンガポールは「アジアの多国籍企業のハブ」というイメージから、資源豊かな国と思われるかもしれませんが、実際にはその国土は極めて小さく、淡路島とほぼ同じ面積です。この小さな国土の中に、約580万人の人々が暮らしています。

兵庫県の人口が約540万人であることを考えると、兵庫県内のすべての方が淡路島で生活しているとイメージしていただくと、その密集度がよくお分かりになると思われると思います。国土が限られているため、シンガポール政府は都市計画やインフラ整備に力を入れており、高層ビルや地下鉄、緑地公園などが効率的に配置されています。また、国土の大部分が海に面している為、湾岸風景はどこか神戸や阪神工業地帯に似たものが感じられます。風景的にシンガポールは兵庫県と意外な共通点を持っており、人口や面積に関しても兵庫県に暮らされている方にとって、大変イメージしやすいかと思われます。

マリーナベイ地区



筆者撮影

### 2 大阪・関西万博とその後：シンガポールのモデルケース

兵庫県の隣に位置する大阪では、今夏「大阪・関西万博」が開催されます。このイベント名称には、開催地の大阪だけでなく、関西地方全体にもスポットライトを向けるといった強い意志が感じられます。万博には、もちろんシンガポールも出展予定で、すでに去年末の時点でパビリオンの建設が完了し、参加国の中で一番乗りの完成であったそうです。万博終了後、開催地である「夢洲」には、カジノを含む統合型リゾート施設(IR)の建設が日本国政府と大阪府によって検討されています。大阪府内にIR施設が完成した際は、兵庫県をはじめとする関西地方の府県も、インバウンド(訪日観光客)による影響も無視できない

ものとなるでしょう。

このIR計画はまだ議論の余地があるものの、シンガポールにはこのIR導入のモデルケースともなったリゾート施設があります。それが「マリーナベイサンズ」です。マリーナベイサンズは、カジノ、大型ショッピングモール、国際規模の会議場、観光施設

マリーナベイサンズ



筆者撮影

設を有するリゾート施設であり、シンガポールを訪れた観光客が必ず訪れると言っても過言ではない、シンガポールのランドマーク的な存在です。この施設は、シンガポールの観光業と経済に大きな影響を与えており、その成功は日本のIR計画にも大きなヒントを与えるでしょう。また、2月中旬には、マリーナベイサンズが更なる事業拡大計画のために、日本円にして約1.3兆円規模の融資を確保したと、国内外の多くのメディアが報じました。この融資額はシンガポール史上最大の案件であり、マリーナベイサンズの今後の成長が期待されています。

### 3 シンガポールの都市政策と兵庫県の都市開発の関連性

シンガポールの成功は、日本の都市計画にも影響を与えています。特にシンガポールのコンパクトシティとしての開発モデルは、関西地方の都市開発の参考になっています。大阪のIR計画だけでなく、兵庫県内の都市開発にも共通する点が見られます。例えば、神戸市では現在、ウォーターフロント開発や再開発プロジェクトが進められています。メリケンパーク周辺の観光資源を活かした都市整備や、新たな国際ビジネス拠点の形成が目指されています。

こうした開発は、シンガポールのマリーナベイエリアと類似しており、限られた都市空間を有効に活用する点で参考になるでしょう。さらに、淡路島では観光産業を軸としたリゾート開発が進行中です。シンガポールがリゾート施設や観光名所を都市の中心部に配置することで国内外の観光客を呼び込んでいるように、淡路島も自然環境を活かした観光地としての魅力を高める取り組みが行われています。このように、シンガポールの都市政策は関西圏の開発と多くの共通点を持ち、日本にとって貴重な参考事例となっています。今後の兵庫県をはじめ関西地方の発展において、シンガポールの成功事例をどのように取り入れていくのかが注目されるでしょう。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。